



# 協会ニュース

## 第30号

平成22年1月30日発行

編集発行人／宮川 俊介 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17 (日本基礎技術株式会社内) TEL (03) 3476-5721 FAX (03) 5489-7821  
 [ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>

## 年頭にあたって

岩盤削孔技術協会会長

見波 潔



あけましておめでとうございます。平成22年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

1年前の今頃、「金融危機、世界同時不況、雇用不安などが連鎖して未曾有の厳しい社会経済状況」と言っていました。その後、緊急経済対策などが講じられたものの、我が国経済はデフレスパイラルに入ってしまった。会員各位におかれましては、それぞれのお立場でご苦労が多いことと推察しております。

昨年の秋から、公共事業についてはその本質を論じることなく、予算の削減がクローズアップされて論じられています。コンクリートは国土の基盤を作り、人々の安全を確保するのに不可欠な材料であるにもかかわらず、「コンクリートから人へ」という見事な(?)までのキャッチコピーが政策論争やマスコミ報道で大手を振っていることに、もどかしさと苛立ちを感じざるを得ません。

建設産業は未来が必要とするものを見越したモノづくりを通じて社会に貢献する産業です。真に必要な技術は将来にわたって必要とされ続けることに間違いありません。その技術は我々の仲間の技術者集団に宿っています。意を強くしてこの難局を乗り切るわけではありませんか。

当協会は、大口径岩盤削孔技術をさらに磨き、普及させ、信頼性の高い工事を実施することで顧客の期待に応えるべく、会員が協力し合って様々な活動を行っております。平成21年度は「ケーシング回転掘削工法カッタービット損耗量調査報告書」「会員施工会社施工実績調査表(平成20年4月～平成21年3月)」を発行いたしました。合わせて、(社)日本建設機械化協会主催の講習会「大口径岩盤削孔の施工技術と積算」に講師を派遣し、大口径岩盤削孔の施工技術と積算について広く普及に努めました。

平成22年度は「リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料(平成22年度版)」および「大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料(第7版)」「会員施工会社施工実績調査表(平成21年4月～平成22年3月)」を発行する予定です。また、会員相互の情報交換のための「協会ニュース(第31、32号)」を発行して参ります。

会員の皆様のお役に立つ協会として引き続き活動しますとともに、大口径岩盤削孔技術を育て、発展させていきたいと考えております。格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

### 委員会活動報告

1. 運営委員会 3回  
(平成21年5月14日～平成21年10月16日)
- ① 平成20年4月から平成21年3月までの4工法施工実績表の作成・発行
- ② 協会ニュースの審議
- ③ ホームページの審議
- ④ 総会開催、運営
- ⑤ 予算の審議
2. 協会ニュース編集分科会 2回  
(平成21年5月14日～平成21年10月16日)
3. リーダ式ケーシング回転掘削工法分科会 2回  
(平成21年5月14日～平成21年10月16日)
4. 大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料改訂分科会 2回  
(平成21年5月14日～平成21年10月16日)
5. ホームページ分科会 2回  
(平成21年5月14日～平成21年10月16日)

### 成果品

1. 平成20年4月から平成21年3月までの4工法施工実績調査表の発行
2. ケーシング回転掘削工法カッタービット損耗量調査報告書作成・分析
3. リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料

### 広報活動

1. 協会ニュース1回: 第29号(平成21年8月31日)
2. ホームページ改訂(平成21年10月10日)

### 対外活動

1. (社)日本建設機械化協会技術委員会参加 3回  
(平成21年6月5日～平成21年9月29日)
2. (社)日本建設機械化協会主催 講習会  
「大口径岩盤削孔の施工技術と積算」  
(平成21年6月12日から平成21年7月8日まで  
東京、大阪)で当協会派遣講師により、大口径岩盤削孔施工技術の普及を行った。

## 工法・新製品紹介

### オフロード法\* 適合機種の開発

#### 1. 概要

平成18年10月より、建設機械などの公道を走行しない特定特殊自動車に対し、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(通称：オフロード法\*)による使用規制が適用され、以降製作される建設機械等(一部規制対象外車両有)については、法律に基づく技術基準を満たすものでなければなりません。



この基準を満たしたものに、「基準適合表示」としてステッカーが貼付されます。(左図1) エンジンの出力帯(5クラス)により、規制開始時期が異なりますが、弊社の主力機種の殆どが平成18年10月規制分に該当します。

図1. 適合ステッカー

排出ガス性能を持つ新車両を開発、生産(モデルチェンジ)するまでの期間を考慮し、約1~2年の猶予期間が設けられました。弊社としては、この猶予期間が満了する平成20年8月末日までに、各種試験、エンジンメーカーによる検証を行い、関係省庁への届出手続きを終えなければなりませんでした。

#### 2. 主力杭打機：DH658-135M-5

弊社杭打機の内、主力の上位機種：DH658-135Mをオフロード法適合化への第一機種として開発に着手しました。新エンジン搭載モデルを前機種と識別するため、末尾に「-5」(マークファイブ)と付し、本部を挙げて取り組みました。その結果、各種性能試験、環境基準測定、エンジンメーカーによる検証もクリア、関係省庁への届出手続きも完了し、平成20年7月末に初号機を無事に出荷することができました。写真1に、オーガ掘削中の当該機を示します。

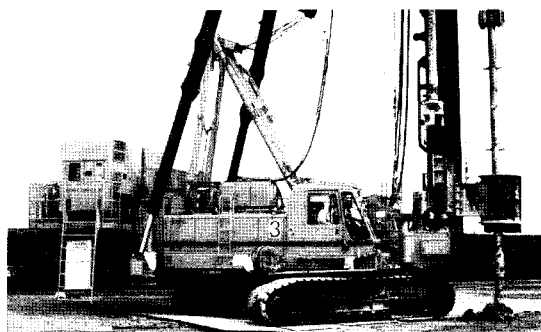


写真1. 杭打機：DH658-135M-5

#### 3. その他のオフロード法適合機種

主力杭打機：DH658-135M-5の開発・出荷を皮切りに、順次他機種の開発を行い、クローラークレーン、小型杭打機についてもリリースしました。平成21年12月末日現在でのオフロード法適合機種は下表1のとおりです。(弊社オフロード法適合機種は、全て型式の末尾に「-5」と付記。)

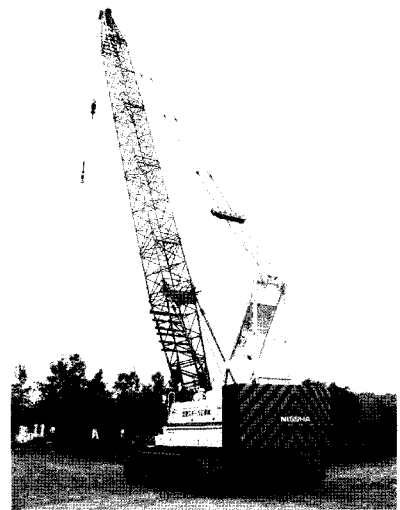


写真2. クレーン：DH900-5

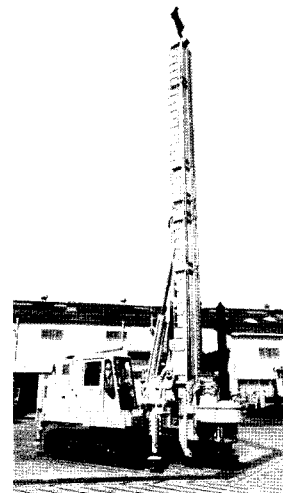


写真3. 小型杭打機：DHJ25-5

今後も、時代が求める環境性能はもちろんのこと、各種工法にマッチした機種を開発・生産していく所存です。

表1. オフロード法適合建設機械 (平成21年12月末現在)

機種	型式	原動機型式・メーカー		型式届出番号	備考
杭打機	DH558-110M-5	J08E-TM	日野	NV-579	
	DH558H-110M-5	J08E-TM	日野	NV-586	高馬力仕様
	DH658-135M-5	J08E-TM	日野	NV-427	
クレーン	DH900-5	J08E-TM	日野	NV-715	
小型杭打機	DHJ08-5	KDN-4TNV98	ヤンマー	NV-625	
	DHJ25-5	J05E-TA	日野	NV-774	

## 岩盤削孔工事施工事例の紹介

# カプセルホウ・パイラ工法による鋼管矢板井筒基礎工

### 1. 工事概要

横浜ポートサイド地区では国際文化都市にふさわしい快適な都市環境を目指し、都市型住宅整備を軸に新しい複合市街地形成を目指した街づくりが進んでいます。当該地区への歩行者の動線を確保する横浜駅北東口からの連絡デッキの工事が行われ、その橋脚の鋼管矢板井筒基礎を中掘り工法に替わるカプセルホウ・パイラ工法で施工したのでご紹介します。

工事件名：横浜駅ポートサイド連絡デッキ(仮称)新設工事

工事場所：横浜市西区高島2丁目

発注機関：横浜市都市整備局

施工者：清水・馬淵建設共同企業体

杭施工者：(株)横山基礎工事 (Capsule Hoe Piler)

橋脚基礎：P1 橋脚鋼管矢板井筒基礎工

鋼管矢板φ800mm・t14mm P-P

工事数量：20本 L=43.0m(9本継ぎ)

現場制約：空頭制限10m(首都高速幹線)

### 2. 課題山積の施工—硬質地盤・長尺・低空・狹隘地

本現場の地層は完新世、末期更新世の沖積層である粘性土、砂質土を中心に砂礫を一部に挟み、支持層はN値50を超える上総層群であり、40mを超える鋼管矢板の中掘り工法による沈設は極めて困難です。また、首都高三ツ沢線の桁下10.0mという空頭制限下で、かつ横浜駅北出入り口と帷子川分水路に挟まれた狹隘地での作業です。そのため杭打ち機と合番クレーン、2台の大型重機がヤードを占有し身動きの取りにくい中での荷取りや機械移動、鋼管矢板の1本につき8箇所溶接など各工程で施工効率が悪く安全確保が困難です。一般的に低空頭、狹隘地対応の低騒音・低振動の鋼管矢板施工機といえは圧入機ですが、ウォータージェットで地盤を緩める、セメントミルク攪拌方式の先端処理ができないなど、井筒基礎施工の本現場には適用が困難でした。従って、最適な工法が求められていました。

### 3. 施工方法

そこで今回起用されたカプセルホウ・パイラ工法は、クレーン吊り下げ式の特殊中掘り機「カプセルホウ」で鋼管矢板の中空を全て掘削し圧入機施工の補助を行う工法です。そのため、圧入作業に噴射水を用いないことから杭周辺地盤を痛めず、一方で中掘り工法や従来の圧入の障害であった河床の玉石などを除去するため、負荷を大幅に低減できます。また、中掘り作業では最新の技術であるボトムシャッターでカプセルパイプを密閉でき水中掘削や高含水の砂などの排土時に飛散や濁り水の漏出を防止でき環境負荷を軽減しながら掘削効率も向上しました。

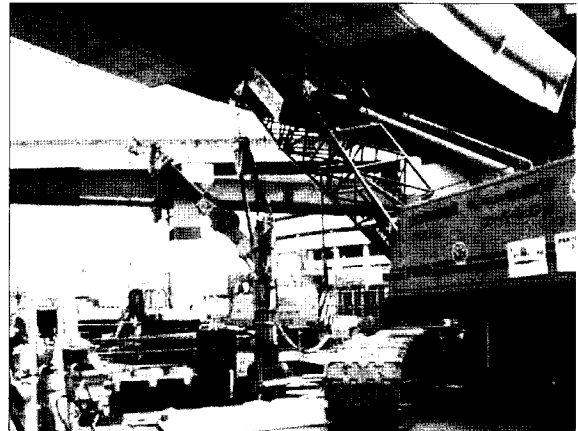
そして、鋼管内を掘削しながら圧入が進行することから、杭下端部に至ると、専用の攪拌処理専用のヘッドにより容易に杭先端をセメントミルクで噴射攪拌混合し杭施工を完了することができます。

更に、今回の現場では、その桁下空間に合わせ、カプセルホウ中掘機を低空頭用の短尺に改造し、管内に吊り込み掘削排土を行えるように最適化しました。しかしまた、工法の性能をしても難工事となる本現場では、油圧駆動の低騒音・低振動施工を生かし、昼夜作業で施工を行い、約80日間で無事井筒基礎の閉合を完了することができました。

### 4. 主要使用機械

名称	規格・型式	台数
鋼管矢板圧入引抜機	φ800用	1台
油圧ユニット	圧入機専用	1台
主クレーン	油圧80t吊低頭仕様	1台
補助クレーン	油圧クローラ20t吊	1台
カプセルホウ	φ800用短尺仕様	1台
油圧ユニット	中掘機専用	1台
電気溶接機	半自動・ウエルダー	各1台
発動発電機	溶接機電源	1台

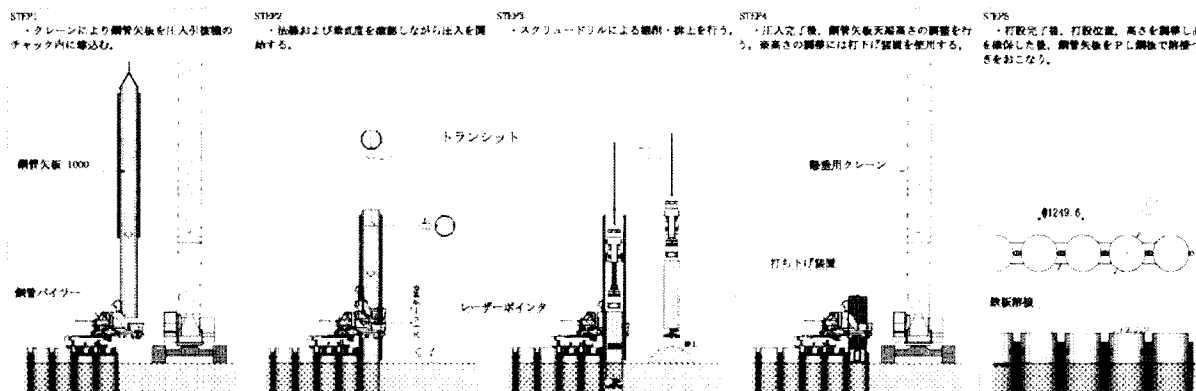
### 5. 施工状況写真



### 6. おわりに

絡み合う課題をひとつひとつ解きほぐし、適切な施工管理の下で無事完了した新技術の性能に幅広くご理解をいただき今後の都市再生へむけた鋼管矢板井筒基礎の技術革新の一翼を担うことを願っております。

(株)横山基礎工事 大野 剛



# User Interview

丸泰土木（株） 工務部長 竹園 利彦氏

今回は、国内及び海外の硬質岩盤層の大口径・大深度掘削工事で、ケーシング回転掘削工法とロータリ掘削工法を併用して、優れた施工実績を挙げておられる、丸泰土木（株）の工務部・竹園部長を訪ねてインタビューしました。

記者： 貴社ではどのような工事で岩盤削孔工法を使用されていますか。

竹園： 当社では、近年主に施工に伴う先行削孔置換杭工（障害撤去置換杭工）として使用しています。対象となる工種は鋼矢板、H形鋼、PHC杭、鋼管杭、鋼管矢板打設及び立坑、連壁等の施工に伴う先行削孔置換杭工です。

記者： 障害撤去の内容はどのようなものでしょうか？

竹園： 地下構造物、橋の橋台と既存杭、山留め材、ケーソン、鉋滓塊、堅固な改良地盤、コンクリートガラ、捨石、護岸、軟岩、硬岩等の撤去、施工に支障となるものは出来るだけチャレンジしています。

記者： ケーシング回転掘削工法とロータリ掘削工法の併用による特殊な工事もあったと聞いていますが？

竹園： 海外での橋脚基礎工事ですが、概要と内容を説明します。

1. 場所打杭：  $\phi 2,000 \times L=60 \sim 75m \times 120$ 本
2. 地盤条件： 砂岩ズリ、砂、泥岩、砂岩（50%以上）
3. 施工環境： 水深15mの海底を砂岩ズリで埋め立てた岬の先端、施工箇所は鋼矢板に囲まれ、海水の影響少なし。
4. 施工方法： 弊社提案による
5. 施工機械： ケーシング回転掘削機、ロータリ掘削機
6. 人員： 掘削機械の操作の指導

施工方法は地盤条件から、ロータリ掘削工法（ローラビット掘削エアリフト方式）とし、スタンドパイプにケーシング回転掘削工法のケーシングチューブを採用した。ケーシングチューブの先端はローラビットで掘削可能な、しっかりした地盤約GL-30mまでとし、GL-30～60m（又は75m）間はロータリ掘削とした。



竹園 利彦氏

杭1本当たりの施工日数が6日（昼夜）で長期となるため、ケーシングの周面摩擦抵抗による引抜き回収困難が想定された。そのため次のような措置をし施工方法の提案をした。

- (1) ケーシング長は、 $L \leq 30m$ （ $\phi 2,200$ ）（ケーシングの引抜き検討書添付）
- (2) 掘削機設置箇所の地盤強度を確保し、かつ現地調達可能な鉄筋コンクリート板と専用鉄板を併用する。
- (3) 地盤強度の確保は全工期に渡り行い、途中強度不足が認められたら補強を行う。
- (4) ケーシングの鉛直精度（1/500）を確保する。幸いしっかりした埋土（15m）と、海底への根入を最小限としたことなどもあり、工事は約6ヶ月間（機械4セット）で無事終了しました。

記者： 施工される上で配慮していることはありますか？

竹園： ケーシングの引抜き不能やジョイントの切断等が、全く無いよう慎重に検討し、常に工事の安全と工期内終了を目指しました。

記者： お忙しいところありがとうございました。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

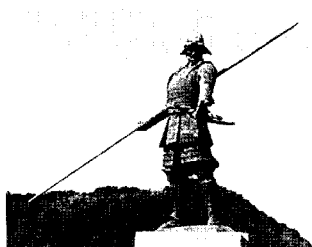
（丸泰土木 渡邊俊幸）

MY TOWN

見どころ食べ処

— 四国編 —

〔 四国の景観と料理 〕



長宗我部元親銅像



郷土料理

四国のGDPは全国の3%に満たなく、インフラ整備や交通整備も十分では有りません。又、広い面積を誇りながら人口が少なく、一人当たりの面積は非常に大きく、逆に人口密度が最も低い地域と言えます。

そんな四国ですが、現在、NHK連続テレビ小説に於いて、徳島を舞台とした「ウェルカメ」を放映中で有り、又、愛媛を舞台としたNHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』が、2009年秋から3年にわたって放送されています。

そして、2010年のNHK大河ドラマは、『龍馬伝』です。坂本龍馬が大河ドラマになったのは、昭和43年の「龍馬がゆく」

以来40年ぶりであり、幕末の風雲児である坂本龍馬の33年の生涯を、龍馬と同じ土佐出身で三菱財閥の創始者・岩崎弥太郎の視点で描くオリジナル作品です。様々な障害を自由かつ合理的な発想で乗り越えていく天才・龍馬と、龍馬が設立した貿易結社・海援隊へ資金提供をしながら龍馬と交流を深めていく弥太郎を中心に描かれます。

この様に、経済的には日本のお荷物となっているようなイメージも有る四国ですが、自然や文化、歴史や風土に於いては非常に特色があり、四国の人々は、『おせったい精神』と呼ばれる、おもいやりホスピタリティー精神に溢れており、お遍路さんをはじめ、四国にお越しになる方々をおもてなす精神は小さい頃から自然に身に付けています。

そして、四国が最も誇れるのは食の文化で有ります。四国といえば、それぞれの地域を代表する美味しい料理が沢山あります。（徳島ラーメン、さぬきうどん、伊予柑、かつおのたたき等……）

こんな四国ですが、先ほどのTV放映でも分かるように、四国から輩出されている歴史上の人物が非常に個性的で有り、数多のヒーローを世に出しています。又、現在空前の戦国武将ブームといわれていて、『歴史』と呼ばれる女性ファンも急増しており、その中で、最も人気がありますのが、アンケートに於いて、次の

大河ドラマに抜擢して欲しい人物第1位となった四国の覇者『長宗我部元親』です。長宗我部氏の人気がある理由として、元々中国の秦の始皇帝を祖先にもつ渡来人として本人が名乗っており、抜群の軍略とカリスマ性で、時の天下人と堂々と渡り合っており、豊臣配下となった後も活躍しますが、関ヶ原や大阪の合戦では悲劇的な最後を遂げています。そういう悲劇のヒーローという事もあり、最近NHK大河ドラマで放映されましたもう1人の高知の殿様『山内一豊』が四国外から幕府の任命を受けた入植者のため人気が無い事と比較しても、この、長宗我部家の人気は四国で高

く、居城であった岡豊城や銅像が祭られている若宮八幡宮へも沢山の観光客がお見えになっています。又、そこでは非常に美味しい郷土料理も堪能できます。

2010年は是非、坂本龍馬や長宗我部元親、山内一豊など、四国が生んだ歴史ヒーローの生誕地を訪ねられ、歴史探求と共に四国の美味しい自然料理を満喫しにお越し下さい。

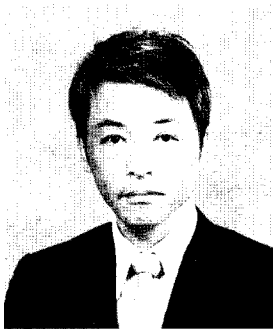
(高知丸高 高野一郎)



## 私の履歴書

丸井重機建設株式会社  
代表取締役社長

丸井 哲人



丸井 哲人(まるい あきひと)  
昭和42年11月21日 青森県生まれ  
平成6年 丸井重機建設入社  
平成13年 常務取締役役に就任  
平成19年 専務取締役役に就任  
平成21年 代表取締役社長に就任

### ■郷里・幼年時代・学生時代

青森県には、新渡戸稲造の祖父であり、東北の開拓史上の偉人でもある新渡戸伝翁が開拓した三本木原台地がありますが、その中核都市である十和田市で建設業を営む家の長男として生まれました。

高校時代までは郷里で、多くの友人に恵まれ、この友人達と共に学校生活でも私生活でも活動的で充実した毎日を過していました。

上京し、大学に進学してからは、テニスや色々なサークル活動などで、様々な人達と出会い、様々な経験をさせていただきました。なかでも、バブル景気の栄枯盛衰を垣間見ることができたことは、今思い起こしても、大変貴重な経験だったと思います。

機鋼管チルトパイラーWP-150P導入・ISO9000及びISO14000認証取得・地中埋設物撤去工法(ヒロワーク)導入・岩盤掘削機ドーナツオーガSDA-390HWP導入等新たな新工法に挑戦。

### ■経営

当社は3部門で構成。「建築部門」は建築物の企画、設計、施工。公共建築・一般住宅・ホテル・マンション・事務所等。「土木部門」は土木工事の設計、施工。河川・海岸・道路・舗装・砂防・橋梁・下水道等。「基礎工事部門」は基礎工事の設計、施工。既製杭・場所打ち杭・岩盤削孔・地中障害物撤去・既存杭引抜・深層混合地盤改良・地中連続壁・土留杭等。

経営理念：「わが社は和を基本理念とし信用と技術を提供する」。

社は：「勇気・決断・実行」。

重大基本方針：「無事故・無災害完工。コストダウンの徹底。全社一丸」。

平成21年度スローガン：「企業継続の為の受注量の確保。将来の飛躍の為の技術・人材・資本の蓄積。業績維持向上の為の徹底的コストダウン」。

### ■社員とのコミュニケーション

「働きやすい職場環境の提供」と「やりがいのある仕事の提供」を心がけております。基本的には自由と責任を持たせた営業活動、現場管理をさせ、細かい注意指導は極力せず、仕事以外の話題を多くするようにしております。

### ■信条・趣味

心の支えとしている言葉は、坂本龍馬の「世の人は我を何とも言はば言へ、我が為す事は我のみぞ知る」。

趣味：少し古めの車を購入し、ドライブする事。私は免許を取って以来、購入した車は8台あるが全て古めの車を購入してきました。現在、所有している車も自分より1つ年上の43年前のスカイラインです。また、古いプラモデルも好きでオークション等で買い過ぎて部屋が埋まっている状態です。

### ■今後の展望

今回の政権交代で日本の建設業は本格的な生存競争が始まります。

そうした中でも無事故・無災害や高品質・ローコストの提供は目標次元的な物ではなく、当然の義務であり、社会全体にどれだけ貢献できるかが企業に問われる価値になっていくと思います。そうした、新しい時代にあるべき建設業者の姿を社員と共に模索し、研鑽して行きたいと思っております。

(丸井重機建設(株)丸井 哲人)

### ■社会にでて

平成6年にUターンと同時に丸井重機建設(株)に入社、入社後は各支店、営業所で現場代理人及び営業を担当していました。平成13年に本社勤務となり、現在に至っております。仕事においては、各官公庁、ゼネコン、地元建設業者、商社他多くのすばらしい顧客に恵まれ、過分の期待と支援いただいていると、常々実感しており、感謝しきれません。

### ■会社の歴史

誕生：昭和24年丸井組として土木工事請負業、砂利採取業を丸井寅次郎代表からの出発。

昭和27年丸井建設株式会社に改組。

転換：昭和48年丸井重機株式会社と合併し丸井重機建設株式会社に社名変更、重機建設専門会社として出発。

発展：昭和53年～平成11年大型パイルドライバーD508-95M(当時国内最大機種)導入・岩盤掘削、ロックオーガ工法導入・拡底工法機ED5500導入・大口径岩盤掘削機CD2000導入・超大型パイルドライバーDH808-170M(同内最大級)導入・岩盤掘削機ドーナツオーガSDA-300HWP導入・大口径岩盤掘削機CD1500導入等、技術を極めて新工種に挑戦。

結実：平成11年度、青森県「建設業」完成工事高第1位に躍進。引き続き平成13・14・15・16・17・19・20年度も青森県「建設業」完成工事高第1位で堅実な企業に。21年度も第1位に躍進を目指す。

進化：平成14～平成19年鋼欠板・鋼管矢板圧入引抜



## ここにこんな人が わたしの履歴書

三和機材(株) 執行役員  
営業本部長代理

嶋野 亨



嶋野 亨 (しまの とおる)  
昭和27年9月13日北海道生まれ  
昭和51年 三和機材(株)入社  
平成17年 執行役員  
営業本部長代理に就任

■郷里・幼年時代・学生時代  
運河、石原裕次郎記念館、ヨットハーバー、北一硝子、オルゴール館、鮭屋横丁など、最近をよくテレビの特集番組で放映される北海道は小樽市で、昭和27年、男兄弟3人の次男として生まれました。小樽で生まれたと言っても、現在の小樽は生まれ育った当時とは大変様変わりし、「こんな所も新しく出来たんだ」と観光都市への変貌ぶりにテレビを見るたびに驚いています。ちなみに在住の頃には、運河も整備されており、石原裕次郎記念館、ヨットハーバー、北一硝子、オルゴール館、鮭屋横丁などは影も形もない時代でした。

幼年時代・学生時代は、遠洋漁業が真っ盛りの時代で、実家は海運会社を経営、アラスカのベーリング海まで遠洋漁業に繰り出していました。球技は卓球、冬国育ちのためスキーはそこそこの腕前？で、比較的平穏な生活だったと記憶しています。

皆様、『八角』という魚をご存知でしょうか。先日船橋の市場で見かけ買ってきました。結構高価な値段で売ってました。実はこの魚、昔は見向きもされず売り物にならなかった、はんば魚ですが大変美味です。水揚げした折に父が持ち帰り、食卓に並んだことをなつかしく思い出します。時代の変遷とともに物の価値もかわるものだと感慨深く思う今日この頃です。

その後、遠洋漁業も廃れる中、高校の時に家業の海運会社は廃業となりました。小樽で過ごしたのは高校まで、大学は室蘭に進学、機械工学を専攻しました。

### ■社会にでて

1976年(昭和51年)に三和機材に入社しました。当時はオイルショックで就職は厳しい時代でした。北海道から夜行特急で約20時間かけ東京へ、東京に到着してさっそく午前中は入社試験、午後面接となり、終わるとすぐ内定がでて、その日の内に北海道にとんぼ帰りしたことは忘れられない思い出です。初めての入社試験もこの1度きりで、社会人の仲間入りとなりました。

入社して最初に本社の技術開発部の配属となり、入社1年目から開発品の設計に従事することになり、主に当社の主力商品であるアースオーガ以外の特注の新製品の開発設計・製作に携わってきました。設計のセの字もわからぬ時期から、営業に連れられ客先に出向き、打合せ、新規開発の製品の設計、製作、組立、現地組立て指導まで行い、時には大手企業ユーザの部長さんに教を頂きながら、設計したのを懐かしく思い出します。1985年(昭和60年)に

技術部門が統合され千葉工場技術部に配属、1992年(平成4年)からは札幌技術開発センターの創設にともない3年間赴任しました。ここまでは大学で学んだ機械工学を生かす技術畑を歩みました。

1995年(平成7年)になると、本社の企画部に配属となりましたが、ここから技術者としての道を外れていきます。当初は営業的な立場からの新商品開発オンリーとのことでしたが、除々に弊社が事務局を務める協会の運営、新たな協会の設立など、また(社)日本建設機械化協会、(社)日本建設機械工業会、(社)日本下水道管渠技術協会などなど社外の団体にまで携わることとなりました。

岩盤削孔技術協会との出会いは、現岩盤削孔技術協会事務局の葭田誠作氏が三和機材を退職された平成11年に始まります。当時は三和機材の先代の社長の志村社長が運営委員会担当理事であったこともあり、運営委員会の委員長をいきなり仰せつかり、運営委員の一員として岩盤削孔技術協会の発刊する技術資料、ホームページ、協会ニュースなどの取り纏めに参画してきました。並行して(社)日本建設機械化協会発刊の大口径岩盤削孔の積算にも携わることとなり、これを契機に積算やら、損料やらの世界に入り込み、技術者の影はますます薄くなってしまいました。気がつくとも社内、対外業務の「なんでも屋」になった現在です。

さて、いままで多くの協会に携わりましたが、岩盤削孔技術協会の運営委員会では、各社の皆さんと技術資料などの取り纏めの中で、会社を離れたお付き合いをさせていただいたのが大きな財産だと感謝しております。これからの会員ニーズに則した協会活動に皆さんと共に尽力して参ります。

### ■趣味・信条

趣味と言えるのは、最近はほとんどご無沙汰ですが、SF小説大好き人間でSF小説の読書です。

信条は、『自分でやってみる。やってみればわかる。わかれば先が開ける。』です。考えてまず行動、行動する中でより良く物事は進むと思います。後先考えずでは困りますが、難しい局面ほどまず一歩行動だと考えます。

### ■今後の展望

昨今の経済状況は先行きに光が見いだせない中、各社生き残りに必死のことと思います。今こそ自社の強みとニーズを再認識し、社会ニーズ、ユーザニーズに則ったメーカーとして、コア技術を更に伸ばすことも生き残りの条件と考えます。無論メーカーですから新たな挑戦を忘れてはなりませんし、新たなビジネスモデルの構築が必要です。アフターサービスを基軸にしたトータルサービスのニーズがより大きくなると思われますので、当社としても模索していきたいと考えています。

(三和機材(株) 嶋野 亨)

### 【お知らせ】

◆当協会の名誉顧問、三谷健様11月8日ご逝去、ご冥福をお祈り申し上げます。平成元年から平成18年まで、協会会長として協会の発展に顕著な貢献をなされたご功績に感謝申し上げます。

### 編集後記

協会ニュース発刊にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)